



(成人式 2018 1/6)

2018.3
vol.209



今、ここから未来へ

学校長 飯山 等

「私が20年前、日本語教育の教員を志したのは、今日のこの日のため、大谷に出会うためだったのだと、いま思っております」……

既報(Otaning2017.10 乾文雄 宗教教育センター長の報告)のように、昨年9月に私と乾教諭の2人が韓国の水原女子高等学校を訪問して姉妹校協定を締結いたしました。大谷の歴史にとっても初めての姉妹校交流です。水原女子高校は1936年創立の公立の女子高校です。教育庁(日本でいうと文部科学省)の指定日本語重点学校となり、2016年からは第2外国語として日本語を必修とするクラスが設置されました。韓国は高校で第2外国語まで学習し、第1外国語は必修として英語、第2外国語は中国語、日本語などから選択です。本校が選択授業でハングル講座を開き、韓国言語文化部としてクラブ活動を行っていることを、担当させていただいている徐希寧先生を通じて知られた水原高校から、昨年1月に交流の申し出を受けて、9月の締結に至りました。

訪韓の折の気持ちあふれる歓迎、クラスの生徒たちの「日本語が好き、日本が好き」の熱い心、そして優れた日本語力は、今も心に鮮やかに思い出されます。そして今1月全 仙愛校長先生と、日本語クラスの担任であり学校交流担当李昶垠先生が大谷を訪問してくださいました。冒頭に紹介したのは、そのとき私たち大谷の教職員を前にして、李先生が目には温かいものをいっぱいにしての言葉です。

李先生が入学された高校では、第2外国語はフランス語希望者が2クラスで、日本語希望者が14クラス、そのような雰囲気の中で李先

生も日本語を選択されました。そして高校3年生の時の日本語の先生の大きな影響で、日本語を専攻したいとソウル^{ソウル}建国大学に進学され、2004年日本語教師としての歩みを始められました。しかしそれは決して平坦な道ではありませんでした。最初の学校では、1998年の日本大衆文化開放施策もあって、日本語は人気があったのですが、程なくして両国の歴史問題の影響で日本語を選択する生徒は減少し、国からは他の教科担当に移るよう要請がきたり、生徒から直接つらい言葉を投げつけられることもあり、悲しくさびしい思いをいただくのほうが多くなりました(そのようなことは、先の太平洋戦争中の日本でもあったことです。英語が敵性言語として禁じられ、それを話す人が排除差別されたり)。それでも李先生は、少ないけれども「日本語が好き、日本語の先生も好き」と言ってくれる生徒たちの存在に励まされて日本語の教師としてがんばってこられました。

帰国された李先生から、「2017年は、教師になって初めて‘やりがい、生きがい’を感じることができました。日本語の教師になってよかったなあ。そのおかげで大谷のみなさんに会えたなあといつも思っています」とメールが届きました。

いよいよ5月には水原高校の日本語クラスの生徒が、8月には大谷の韓国言語文化部の生徒を中心に、それぞれ訪問し合っただけの交流を始めます。全校長先生が私たち教職員を前にして、「この交流が生徒たちにとって、単なる異文化体験に終わるのではなく、子供たちの未来にとって、両国の将来にとって意義深いものとなることを願っています」と述べられたように、この交流が世界の未来に真っ直ぐにつながっていると、私もまた思うことです。